

インテレクチャル・カフェ広島(広島工業大学)を開催しました！



平成 22 年 9 月 2 日(木), ひろしまハイビル 21 において、「インテレクチャル・カフェ広島(広島工業大学)」を開催しました。

「インテレクチャル・カフェ広島」は、広島地域の大学の若手研究者と、産業界・金融機関・行政等が交流し、新技術・新製品の開発や新事業を生み出すネットワークを形成することを目的とした交流会です。

広島県内の 5 大学(広島大学, 広島市立大学, 広島工業大学, 県立広島大学, 近畿大学工学部)持ち回りで平成 20 年度から継続的に開催しており, 今年度は, 広島市立大学(7 月)・広島大学(8 月)に続いて 3 回目の開催となりました。



(茂里学長)

連日の猛暑にもかかわらず, 通常より 15 分ほど早い開始時刻(17 時 45 分)には, 80 名近い参加者で会場はほぼ満席となり, 茂里一紘(もりかずひろ)学長の挨拶で交流会はスタートしました。

挨拶の中で, 茂里学長は, 広島工業大学の「産学連携の基本理念」(研究成果を社会へ還元する, 社会と科学技術の健全な関係を構築する, 次世代の技術者(学生)を育てる, 社会が求めるものを把握し応える, 本学のありかたを社会から学ぶ, 本学の研究者が社会に対応して誠実であることの証とする)を紹介し, 産学官連携推進への熱い想いを語られました。

茂里学長の挨拶に続いて, お二人の研究者の方から, ご自身の研究内容について, 約 20 分ずつ話題提供をいただきました。

【話題提供①】電気エネルギーシステムの最適化

(広島工業大学 情報学部 知的情報システム学科 准教授 久保川淳司氏)

久保川先生からは, 雷等の災害で送電線が利用できなくなった場合でも, 電力システムを停電することなく安定に運用することができる手法について紹介がありました。

講演資料①

送電線に流れる電力が多ければ多いほど, 事故時の影響が大きくなって電力システムは不安定になるため, 送電線に流すことができる電力量には上限があり, その値は電力システムの運用条件によって異なります。



一般の電力会社では, この上限値(送電可能容量)を事前に計算し, 事故時の対応に備えているようですが, 本手法を適用すると, 時々刻々と変化する様々な運用条件に応じて, 最適な値を瞬時に計算し, リアルタイムで電力機器の制御に反映させることができるため, より安定的・経済的な運用が可能になるということです。

本手法は, 実際の大規模な電力システムにおいて, 運用支援に適用可能であることが既実証されており, また, 今話題のスマートグリッドのような小規模な電力システムの運用にも応用が可能とのことです。

【話題提供②】住民の記憶をもとに失われた街をCGで復元するプロジェクト

(広島工業大学 工学部 建築工学科 教授 福田由美子氏)

福田先生からは、原爆により消滅した広島市猿楽町の街並みを、コンピュータグラフィックス(CG)で再現するプロジェクトについて紹介がありました。

講演資料②

住民の方々が当時の記憶を頼りに描いたスケッチ、当時の地図・写真、および同時代の全国各地の類似の写真などを材料にして何度もヒアリングを繰り返し、CADデータの3次元化までご担当されたとのことですが、記憶の曖昧さ・食い違いなどもあって、長期間にわたる大変な作業だったそうです。



完成したCG映像も一部公開されましたが、その中で再現された街並みには、絵や模型では表現しきれない匂いや空気間のようなものが感じられ、参加者からも感嘆の声が上がっていました。

ここまで再現できたのは、当時の商業を軸とした人間関係や、生き生きとした暮らしぶりがあったからこそであり、人間関係が希薄な現在、この街並みを同じように再現できるか自信がないという言葉もまた印象的でした。

話題提供の後、茂里学長の挨拶、そして中国経済連合会の福田会長の乾杯挨拶に続き、軽食と飲み物による立食形式の交流会が行われました。

今回は、先月就任されたばかりの中国経済産業局の井辺局長が初めて参加されたほか、主催大学以外の大学からも、学長などトップの方々が多く参加され、会場の至るところで、活発な意見交換が行われていました。



(福田会長)

その盛り上がりは、井辺局長の一本締めでお開きになるまで途切れることがなく、産学官連携のネットワーク形成にとって、非常に有意義な交流会となりました。



(井辺局長)



(交流会の様子)

以上